

(議長)

次に、小梅議員の発言を許可致します。

「小梅議員」

はい。

(議長)

「小梅議員」。

「小梅議員」

はい。すいません、お待たせしました、小梅でございます。

早速質問させていただきます。まず、一問目です。

冬の大きなイベント、たば風の祭典の中でもとても人気の高い鍋まつりについて、でございます。鍋まつりそのものよりも、実は会場についてのことでございますが。鍋まつりは観光協会の事業ですが、開催場所は閉鎖中であります旧生涯学習センター、通称文化センターの体育館というと町の施設でございます。この施設は、閉鎖後、長い間経過しております、傷みが随分進んでいるようで、雨漏りなどもあり、衛生面からも食べ物を提供するべき、するイベントの会場には適さない場所だと考えます。

小さな子どもさんから、高齢者、観光客など不特定多数の人が出入りする中、例え小さな事故であっても、あったら大変です。町としても、大きな責任問題に繋がる可能性が大きいと心配していました。

鍋まつりは、冬の大事な一大事業として定着しておりますので、是非これからも継続して欲しいのですが、もっと適切な場所での開催を望んでおります。そのためにも、会場について、早めに検討すべきと思うのですが、いかがお考えでしょうか。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

小梅議員の一問目、鍋まつりについて、でございます。

今年で16回目を迎えました江差観光コンベンション協会主催の鍋まつりの会場についてですが、会場となった旧生涯学習センター体育館は、議員ご指摘のとおり、既に閉鎖されている施設であり、当然、老朽化が著しい施設であることは承知をしております。

江差観光コンベンション協会では、これまで行事開催のための臨時的措置として、最低限の補修や防火設備の整備を行ってきたと聞いておりますが、これ以上使用することは限界だと考えております。

そのため、なるべく早い時期に主催者である江差観光コンベンション協会に対しまして、次期開催場所の選定にあたって協議を行うよう要請して参りたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

**「小梅議員」**

はい、わかりました。それならそれでもう何も言うことございません。どうか別のところに変えて頂ければあの幸いでございます。

実は私たちもかあちゃん食堂として第6回目まであの出店、参加をしておりました。でも、あの何年か後に会場が今の生涯学習センターの方に移りましてから、何でこんな閉鎖した場所でやらなきゃいけないのかなって疑問が自分の心の中におきまして、何となく出店するのをやめて今に至っております。もしまた新しいところであのやることが、なったら是非この次は協力して私たちも出店したいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

**(議長)**

はい、二問目。

**「小梅議員」**

それでは、第二問目です。

観光施設の料金について、でございます。

中村家、郡役所、関川家は町民に限らず、70歳以上の観光客が無料とのことですが、いつ頃からそのようになったのか。また、その根拠など、過程を教えてください。

私は、町外の人には有料でいいと考えています。そして通年通して開館するのがいいなと思っていましたが、それは何か通年やるように決まったようでその点は言いませんが、料金の方は有料と考えていますので、是非お願い致します。

**(議長)**

はい、「教育長」。

**「教育長」**

文化財3施設に関しまして、70歳以上の無料化に関するご質問でございました。

70歳以上の無料化につきましては、平成22年の第1回定例会で議決頂いた、江差町文化財建造物施設管理条例で定めたものでございまして、平成22年4月1日から施行致しているものでございます。

条例では入館の無料化の対象を70歳以上の人、心身に障がいを持たれている方、町内の社会福祉施設に入居されている方、それらの介護者、そして町内の小中学校に在籍している児童生徒、と定めたところでございまして、この点では、70歳以上或いはその障が

い者の方っていうのを新たに追加した記憶がございます。

このような無料化を背景とした、設定した背景としては、一つは教育委員会で定めております江差町の教育目標である、ふるさと江差に心の向く教育を推進する観点から、観光施設という位置付けはもとより、町の大切な文化財の価値を多くの方々に知って頂きたいという点もある訳でございます。

その中で、ご指摘の70歳以上を無料とした経過につきましては、北海道や他の施設の例を参考にしたことも一つございますし、高齢者や障がいを持つ方への無料化で、福祉の向上とこういうことを図る、大きな目的もございました。

昨年7月から町民の皆さんの入館を無料とする条例改正をさせて頂き、多くの方々に見て頂いて、そして知って頂くという点では、一歩も二歩も前進しているものと思っております。しかし、もう一方の福祉の向上という点においては、大きく環境が変わった訳でないことから、6年前に提案し、議会の議決を頂いた重みを考えますと、直ちに直すということには慎重にならざるを得ません。

いずれに致しましても、昨年から無料になった経過もございますので、現状を検証し、そのあり方を今後の課題として参りたいとこのように考えておりますので、ご理解頂きたいと存じます。

(議長)

はい、「小梅議員」。

「小梅議員」

はい。今何か旅行される方は結構70歳前後の人が結構多くいらっしゃるようです。そしてあの団体旅行とかよりも、小グループとか、あとご夫婦、それから一人旅がすごく人気なようで、その方たちはちゃんと目的意識もあって、見たいところとか、ものすごいこだわりを持って来られるようです。だから、ちょっとしたその自分で支払わなきゃない料金とか、かかる料金に関してはあまりお金のことはこだわらないみたいで、何か函館辺りからタクシーで乗ってらっしゃる方もいらっしゃるようで、またその高級旅館のあの群衆に宿泊なされて来ている方も多いようで。だから、使うべきお金は、払うべきお金はきちんと払ってもらって、あのきちんとした対応、対応しつかりとした対応して、きちんと説明して、優しい笑顔で迎えて、お客さんに納得して喜んでもらえるようにするのが何よりのサービスだと思います。

人口は確かに少なくなってきました。人の口の方の人口、少なくなってきましたけれども、人との交わりの人交の方をこれからも密度濃くして、その人口減った分の交わりの方の人交を密にして、交流を大事にしていきたいと思っております。どうぞあの宜しくお願い致します。

それから、第三問目っていいですか。

(議長)

はい、どうぞ。「小梅議員」。

「小梅議員」

それから、第三問目です。東京江差会の存続は、って書いてあるのですが、ふるさと会っていいまして、江差に住む、東京に住む江差出身の人たちで作っている東京江差会ってものがだいたい前にあったようです。それが、先に立ってやっている方がいなくなって、自然消滅になったのか、自主解散したのかわかりませんが、今では何の動きも無いようです。

近隣の上ノ国町とか乙部町、奥尻等、ものすごく盛んに活動していて、あの私の友達の江差出身者の人も、そっちの方に紛れ込んで参加していると話も聞いています。そして、江差会がないのは残念だよねっていう話もよく聞きます。

この頃は特にふるさと納税制度とか、今回また東京特別区との連携事業等が始まりまして、こういう時にそういうふるさと会みたいのがあったら、力強く盛り上がるだろうなって強く感じています。出来たならば、復活出来ればなと願っています。

またあの、追分会の関東の方の支部もたくさんございますので、そういう人方にも繋がりを持ちながらやっていければ、何とかなるのではないかなと思っています。

それと実は、江差高校の同窓会で、北鷗会関東支部という団体があります。組織もきちんとしていて、一年ごとに総会もなされていて、一回の総会に120、130人も集まります。ものすごく盛会になります。皆、江差のことをすごく思って、賑やかに懐かしんでおります。

とりあえず、そこを基盤に連携、交流を試みながら、少しずつ拡大を図っていくのも一つの案かなって考えています。そしてその延長上に、ふるさと会の結成が出来れば嬉しいことだなんて夢みたいなこと思っていますけれど、如何でしょうか。

「町長」

議長。

(議長)

「町長」。

「町長」

小梅議員の三問目、東京江差会のご質問でございます。

東京23区、大田区との連携事業を行う中で、ふるさと会と交流し、盛り上げることも考えるべきでは、とのご質問でございます。

まず始めに、東京江差会について、でございますが、平成12年を最後に休会している状況の確認が取れたところでございます。

当時、中心的に活動していた方で、現在は、北鷗会関東支部で顧問に就任されている方と、コンタクトが取れたことで情報を得ることができました。

去る、2月26日から3日間の日程で、北海道ひやま「食・観光フェア」に、私自身も参加させて頂きました。

参加していた檜山各町のブースへは、各町のふるさと会が応援に駆けつけておりましたが、残念ながら江差へはなかったものの、北鷗会関東支部の皆様にお出で頂いたことは、大変感謝申し上げますと同時に、大変嬉しく思っております。

今回の東京23区との連携がスタートしたことからも、議員おっしゃるように、東京江差会の活動を促す良い機会だと私も考えております。

復活に向けての打診を行うことや、例えば、東京江差会を母体として、北鷗会関東支部や江差追分会関東支部とともに、江差町のサポーターとしてのネットワーク化も含めて、アプローチの動きをして参りたいと考えております。

「小梅議員」

はい、ありがとうございます。

(議長)

いいですか。

「小梅議員」

北鷗会の総会は今年秋にある予定で、多分ご案内もあると思いますので、もしご都合できたら出席して頂ければ皆さん喜ぶと思います。どうぞ宜しくお願い致します。以上で終わらせて頂きます。

(議長)

以上で、小梅議員の一般質問を終わります。